



©2005 石塚真一小学館

島崎三歩の山岳通信 特別連載 Vol.3

信州 山のプロフェッショナル

長野県の山岳地域で発生した遭難事例を原則1週間ごとにお伝えしている「島崎三歩の山岳通信」。その特別連載として、季節ごとに発行する「山岳情報」に登場！

信州の山で多方面に活躍する“プロフェッショナル”の方々の声を、皆様にお届けします！（聞き手：編集部）

Vol.3 “山の教育”のプロフェッショナル

長野県山岳総合センター 所長 今滝 郁夫さん

<プロフィール>

1956年北九州市生まれ、大阪育ち。平成29年4月から現職。
信州大学WV部で無雪期縦走を中心に登山を始める。大学2年次に松本登高会に入会し、岩登りや積雪期登山を行う。
現在は北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会の一員として登山相談所などでも活動中。



「自ら考え行動する『自立した登山者』になっていただきたいと思って講習をしています」（今滝）

—あらためてお尋ねしますが、長野県山岳総合センターとは、いったいどんなところでしょうか？

今滝 長野県の教育機関として、①山岳に関する調査研究や安全登山の普及啓発、②野外活動に関する普及啓発を行っています。その一環として様々な講習を実施しています。宿泊室を備えた研修施設のほか、人工岩場やボルダリング壁もあります。ちなみに、平成30年度の講習内容は、安全登山講座では、夏山・冬山初心者コース、岩登りコースや、残雪期登山やスポーツクライミング、読図や危急時対応講習などがあります。その他にリーダーコースがあります。どの講習もステップアップが図れる組み立てを心掛けています。また、野外活動講座では「“信州”山の自然楽講座」として、専門家を招いて地質学からみた山の成り立ちや高山植物などの現地学習を行います。また小中学生向けの「わくわくチャレンジ教室」ではスポーツクライミングや野外炊飯・登山を行います。

—夏山に限らず冬山、岩登り、スポーツクライミング、またリーダーコースに加えて小中学生向けの内容もあって、幅広い方が参加できそうですね。講習を行う上で、気を付けていることはありますか？

今滝 講習に参加者される方が求めるものと講習内容が合うように気を付けています。講習では、単に知識・技術を伝えるのではなく、「なぜその場面でその技術を用いるのか」「どう判断するか」とい



山岳総合センターでの講義風景。教員経験もあるため、わかりやすい講義には定評がある。

うことを大切にしています。自ら考え行動する「自立した登山者」になっていただきたいと思って講習をしています。また、講習終了後アンケートを行い、改善すべき点は次回講習に生かすようにしています。

一講習には、実際にはどのような方が参加されるのでしょうか。最近の参加者の傾向や特徴などを教えてくださいませんか？

今滝 女性の参加者の割合が年々上昇して、今年は半数近くになってをいます。県内外の比率は約4割が県内の方です。最近は危急時や雪山系の講座への人気が高くなってきており、「脱・初心者」を目指す傾向がみられます。また、講習に参加される方の中に単独で登山をしている方が多いことにも驚かされます。

「知識・技術を整理して身に付け、さらに自分の課題を見つけてレベルアップを図っていただきたい」（今滝）

一今後、安全登山講座には、どんな方に参加して欲しいですか？

今滝 初心者から経験者まで、目的意識を持って主体的に学びたい方に参加していただきたいと思います。現在は様々な情報がネットや雑誌で手に入りやすくなっていますが、かえって迷うこともあると思います。知識・技術を整理して身に付け、さらに自分の課題を見つけてレベルアップを図っていただきたいと思います。



一登山者が安全に山を楽しむために、ぜひアドバイスをお願いします。

今滝 2つあります。まず、自分の力量に合った山やルートを選んで登ってほしいということです。自分の力量と山やルートの難易度の比較には当センターが発表している「信州山のグレーディング」が役に立つと思います。今では岐阜・新潟・山梨・静岡・群馬・栃木などの県も出しています。ぜひ活用してください。

もう1つは、必ず登山計画書を作成し、提出してほしいということです。山やルートの選定から始まる計画書の作成では、ルートの概念や危険箇所の把握を行います。この事前の準備が実際の登山での危険回避の判断や行動に役に立ちます。できれば下山後の振り返りにも計画書を活用して、次回の登山に生かしてほしいと思います。計画書は遭難時の救助のために役立つことはもちろんですが、作成とその活用に大きな意味があります。



積雪期の実地講習の様子。研修では机上だけでなく現地に出て、実践的な知識、技術を学ぶことができる。

一長年にわたって登山者の教育に携わる今滝さんの想いをお聞きました。皆さん自身が山に登る際にも、他人頼みではなく“自ら考え行動できる力”が必要ですね。山岳総合センターの講義に参加してみるなど、知識、技術を身に付けながら、これからも信州の山を安全に楽しみましょう！